

令和7年度 第2回「生徒による授業アンケート」について（報告）

本校の教育活動につきましては、日頃よりご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、このたび令和7年7月に第2回の「生徒による授業アンケート」を実施いたしました。第1回の結果を踏まえ、授業改善への手立てを検討し、各教科で授業の質の向上に取り組んでおります。

つきましては、各教科のアンケート集計分析結果及び授業改善への取組の概要をご覧いただき、ご質問やご意見などがありましたら、ご連絡くださるようお願いいたします。

1. 集計対象の科目（一部略称あり）

教科名	科目名		教科名	科目名	
国語	論理国語	古典探究	芸術	音楽Ⅱ*3	書道Ⅱ*3
地歴公民	地理総合*2 世界史探究*3	歴史総合*1 公共*3	外国語	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅰ*3
数学	数学Ⅱ	数学B*3	家庭	家庭基礎	保育基礎*3
理科	物理*3 生物基礎*3	生物*3 化学基礎	情報	情報Ⅰ*2	
保健体育	体育*1	体育*2 保健			
	スポーツ総合演習*1	スポーツ概論*1 スポーツ科学*3			

*1 スポーツ科学科のみの科目 *2 普通科のみの科目 *3 選択科目 を展開している科目

2. 質問及び選択肢の一覧

分類	質問	略称
授業のあり方	1 教材が工夫されるなどして、取り組みやすく、生徒の理解度に合わせた授業が進められている。	理解度
	2 毎回の授業の最初に、ねらいを確認したり、授業の終わりに学習したことを振り返ったりする機会がある。	ねらい・ふりかえり
	3 授業の中で、友人と話したり、文章を読むことなどをおして、自分の考えを広げ深める機会がある。	思考の機会
	4 授業の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考えたりする場面がある。	まとめ・解決の機会
学習の状況	5 先生・友達に聞いたり、自分で調べたりするなど、授業に対して意欲的に取り組んでいる。	意欲的態度
	6 予習、復習をしっかりとしている。	予習・復習
	7 授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。	成長実感
	8 授業の中で他の人の考えを聞いたり読んだりして、自分の考えを広げ深めることができた。	思考の実践
	9 授業で学んだことに対する自分の考えを書いたり、新しい問題を解決する方法を考えたりすることができた。	まとめ・解決の実践
	10 授業で新たに学んだことを、これまで学んでいたことに、結び付けて理解することができた。	既習事項とのかかわり
	11 家庭学習を習慣化している。	家庭学習

否定的 1 ほとんどあてはまらない 2 あまりあてはまらない 3 ほぼあてはまる 4 かなりあてはまる 肯定的

問合せ先
副校長 吉垣 武
電話 046-241-8001

3. 各教科の回答割合（一覧）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	理解度	ねらい・ふりかえり	思考の機会	まとめ・解決の機会	意欲的態度	予習・復習	成長実感	思考の実践	まとめ・解決の実践	既習事項とのかかわり	家庭学習
1	4%	3%	6%	3%	3%	23%	6%	4%	4%	5%	28%
2	12%	11%	11%	12%	11%	30%	15%	11%	14%	12%	30%
3	51%	50%	50%	53%	55%	34%	55%	57%	56%	58%	29%
4	33%	36%	33%	31%	31%	13%	24%	28%	26%	25%	13%
－	17%	14%	17%	15%	14%	53%	21%	15%	17%	17%	58%
＋	83%	86%	83%	85%	86%	47%	79%	85%	83%	83%	42%
1	6%	5%	8%	5%	5%	26%	7%	5%	5%	6%	33%
2	18%	18%	17%	18%	16%	34%	20%	16%	18%	17%	34%
3	75%	78%	75%	78%	79%	39%	72%	79%	76%	77%	33%
4	49%	56%	50%	46%	44%	15%	32%	39%	36%	34%	14%
－	25%	23%	25%	22%	21%	61%	28%	21%	24%	23%	67%
＋	124%	133%	125%	123%	123%	54%	105%	118%	112%	111%	48%
1	7%	7%	9%	5%	5%	19%	5%	8%	6%	5%	27%
2	15%	13%	18%	16%	13%	32%	15%	16%	15%	15%	30%
3	51%	53%	47%	50%	56%	34%	55%	53%	56%	55%	28%
4	28%	27%	26%	29%	26%	15%	25%	23%	23%	25%	15%
－	21%	21%	27%	22%	18%	51%	20%	24%	21%	20%	57%
＋	79%	79%	73%	78%	82%	49%	80%	76%	79%	80%	43%
1	1%	1%	1%	1%	2%	17%	2%	2%	2%	2%	24%
2	4%	4%	6%	5%	7%	25%	8%	7%	7%	9%	32%
3	55%	58%	58%	57%	56%	42%	55%	60%	60%	57%	31%
4	41%	37%	35%	36%	35%	16%	35%	31%	31%	33%	14%
－	4%	5%	7%	6%	9%	42%	10%	9%	9%	10%	55%
＋	96%	95%	93%	94%	91%	58%	90%	91%	91%	90%	45%
1	2%	2%	4%	2%	1%	23%	1%	5%	3%	3%	31%
2	4%	8%	10%	6%	4%	18%	6%	8%	9%	7%	23%
3	49%	49%	46%	48%	51%	40%	51%	49%	47%	51%	29%
4	45%	41%	40%	44%	44%	20%	43%	38%	40%	39%	17%
－	7%	9%	14%	8%	6%	40%	7%	13%	13%	10%	54%
＋	93%	91%	86%	92%	94%	60%	93%	87%	88%	90%	46%
1	0%	0%	0%	0%	0%	23%	8%	0%	3%	3%	28%
2	5%	8%	10%	5%	5%	18%	0%	15%	5%	5%	20%
3	60%	60%	63%	68%	65%	43%	58%	53%	58%	58%	35%
4	35%	33%	28%	28%	30%	18%	35%	33%	35%	35%	18%
－	5%	8%	10%	5%	5%	40%	8%	15%	8%	8%	48%
＋	95%	93%	90%	95%	95%	60%	93%	85%	93%	93%	53%
1	2%	2%	1%	2%	2%	16%	1%	2%	2%	2%	24%
2	4%	7%	3%	4%	6%	27%	8%	9%	7%	10%	27%
3	60%	57%	60%	61%	59%	41%	61%	58%	64%	60%	35%
4	34%	34%	36%	34%	33%	17%	30%	31%	28%	28%	15%
－	6%	9%	4%	5%	8%	42%	9%	11%	9%	12%	51%
＋	94%	91%	96%	95%	92%	58%	91%	89%	91%	88%	49%
1	2%	2%	2%	2%	2%	22%	2%	2%	2%	2%	27%
2	6%	6%	11%	9%	7%	25%	9%	9%	7%	10%	28%
3	56%	59%	54%	56%	59%	34%	58%	59%	61%	56%	30%
4	37%	33%	33%	33%	32%	19%	32%	30%	30%	33%	15%
－	7%	8%	12%	11%	9%	47%	10%	11%	9%	12%	55%
＋	93%	92%	88%	89%	91%	53%	90%	89%	91%	88%	45%
1	5%	5%	10%	5%	5%	36%	2%	10%	5%	4%	39%
2	12%	18%	17%	20%	12%	21%	11%	15%	16%	15%	23%
3	58%	54%	53%	52%	56%	29%	56%	54%	54%	55%	27%
4	24%	23%	19%	23%	26%	13%	30%	20%	24%	25%	11%
－	17%	23%	28%	25%	18%	57%	14%	26%	21%	19%	62%
＋	83%	77%	72%	75%	82%	43%	86%	74%	79%	81%	38%

4. 各教科の集計分析及び授業改善案

教科	集計分析	授業改善
国語	古典探究・論理国語ともに、授業のあり方の「理解度に合わせた授業」「狙いの確認と振り返りの機会」「自分の考えの共有」の項目で肯定的な回答が多い結果となった。この結果から、授業内で自身の考えを表現したり、目標を踏まえて授業に取り組み、振り返りを通して学習の変容を見取る姿勢が身についていると考えられる。一方で、予習・復習や家庭学習については、否定的な回答が多く見られた。今後は、生徒の興味・関心をひけるような授業を展開するとともに、授業内容と関連する事前課題や復習課題を与えることで、家庭でも主体的に学習する手立てを考え、生徒が身につけた力をより定着・発展させることが必要である。	授業内容に関連するような、授業外でも生徒が意欲的に取り組むことができる事前課題を与え、知識を定着させる。また、ICT教材を活用した課題を与えることで、家庭での学習も主体的に行えるような工夫をする。 国語への興味・関心、学習内容の理解を深めるため、探究課題や他教科と連携・横断した単元の設定の工夫や、グループワークを用いた、主体的・対話的で深い学びを実現する。
地歴公民	第1回同様、地歴公民ともに、＜予習・復習＞＜家庭学習＞の項目に否定的回答が多かった。 また、それ以外の項目については比較的肯定的回答が多く、特に「授業のあり方について」の4項目も変わらず高評価だが、1学期より若干の数値の低下がみられる。	生徒にとって身近な題材を選び、主体的に学習に取り組めるよう、発問や単元設定を工夫する。 また、ICTを用いた授業展開を積極的に行い、生徒それぞれが学びを自己調整できるような仕組みを整える。
数学	全体的に肯定的回答が多く、授業に集中して取り組んでいる姿勢が見られる。しかし、「予習・復習」「家庭学習」においては、肯定的回答が少ないので、その機会が増えるよう、3学期以降の授業のあり方を工夫していきたい。	まずは家庭学習において復習する習慣がつくよう、宿題や演習という形を用いて定期的に振り返りをさせたい。質疑等に工夫した授業展開を考え、授業内容の定着度を図る。さらに、理解度に合わせた授業を心掛けたい。
理科	授業のあり方に関してはどの科目も肯定的回答を多く得ているが、各科目で以下の項目について否定的回答が多かった。またどの科目でも物理、生物、化学基礎で「家庭学習」の項目で否定的回答が多くあった。物理では「予習・復習」の項目で否定的回答が8%あった。化学基礎でも「予習・復習」の項目で否定的回答が約18%であった。生物でも、「予習・復習」の項目で否定的回答が24%であった。	授業のあり方に関して各科目で次のように改善する。生物基礎では、教材作成を工夫しまとめと課題解決の機会を設けていく。物理では、内容的に専門性が高い部分について丁寧な指導に取り組む。化学基礎では、より興味関心を引き出す工夫する。生物では、定期試験の前後で単元を振り返り、ねらいを確認する機会を設ける。 学習状況に関しては、学習内容をより深められるような課題を工夫し、発表やレポート、小テストなどを通じて学習習慣を定着させる。また、理科においては日頃から自然現象に関心を持ち、他教科との関連性を意識することが予習であり、家庭学習となることを周知する。
保健体育	体育（普通科）に関しては、ねらい・ふりかえりの項目が第1回と比較して、向上している。そういったことが関与して、理解度・意欲的態度・成長実感などが90%を超えている、近しい結果につながったことが考えられた。 スポーツ総合演習に関しては、多くの項目で100%であった。3年生の発表に触れたり、今年度よりグループでの実験を開始するなど、継続していることと新しい試みのバランスが好影響であるように思う。 専門体育（スポーツ科学科）は多くの項目で100%肯定的な回答である。生徒の運動やスポーツに対する好印象をさらに周りに波及できるような考えを持ち合わせてもらえるような授業づくりを継続したい。	第1回から継続して、予習・復習、家庭学習の項目に関しては昨年度同様に課題を感じている。映像を授業時間のみならず、家庭でも確認して、次回の目標設定につなげるなどの工夫を行っていかれたらと考えている。また、体育理論的な面でも実技とつながりを感じてもらえるような授業づくりを考慮したい。

芸術	授業のあり方についての項目は、音楽・書道ともに肯定的回答が多くみられる。「予習・復習」、「家庭学習」の項目では他の項目よりも否定的回答が多くみられる。	学習内容一つ一つが独立する傾向にある。継続的な課題として取り組んでいきたい。既習事項と学習内容を関連づけることで、生徒の学びが深まるよう取り組んでいく。また、受講している生徒の実態に応じて、より発展的な課題を設定したり、生徒自身が主体的に学ぶ場面をつくりたい。
外国語	どちらの科目も、「予習、復習をしっかりとっている」と「家庭学習を習慣化している」の項目で否定的回答が多かった。生徒に学習習慣を身につけさせるためにも、授業外で生徒の力で取り組むことができる課題等を出し、改善を図る必要がある。 一方で、生徒の理解度や思考の機会においてはどちらも高い数字を獲得している。この数字が生徒の自発的な学習につながるよう、授業の工夫を心がける。	各科目において、英語における4技能の向上が課題だと考えている。学校の授業でやるべき内容と、家庭学習で十分な内容を精査し、生徒の学力向上につなげたい。また今年度より学年で導入している音読アプリを有効活用し、生徒の英語に対する内発的動機付けを行う。スピーキング、リスニングの指導の一環として発音の指導に取り組んでいく。
家庭	＜家庭学習＞や＜予習・復習＞の項目については第1回よりも「否定的回答」が減ったが改善がまだ必要である。＜思考の実践＞が1学期よりも「肯定的回答」が低下したため改善できるようする。＜理解度＞の項目については、「肯定的回答」が多いため継続していきたい。	主体的、対話的な授業づくりをより強化していき、＜思考の機会＞を得られるようにする。自ら学ぼうする意識づけができるようにするために、興味関心が持てるような題材を取り扱う等教材や授業のあり方を工夫する。単元の目標や振り返りを毎時明確に行い、実技試験や単元テスト等を取り入れることで＜予習・復習＞につなげ、＜意欲的態度＞や＜成長実感＞を高められるようにする。
情報	「授業のあり方について」では、概ね70%の生徒から肯定的な回答が得られた。実習の内容では1学期の文書作成中心から、2学期の表計算ソフト中心に変わっており、取り組みやすさを感じる生徒が減るのではとの予測もあったが、1学期とほとんど同じ結果であった。	「理解度に合わせた授業」では肯定的回答率は80%程度である。生徒が課題に取り組み、完成させるまでの時間には個人差があり、ペース配分やリズムなど、より丁寧な授業を心がけていく必要がある。3学期は、個人で調べて発表するという授業形態であり、そこで話し合いや発表する機会も改善されると思われる。

※紙面の都合上、質問内容については〈略称〉を用いて表記しています。

分類	質問	略称
授業のあり方	1 教材が工夫されるなどして、取り組みやすく、生徒の理解度に合わせた授業が進められている。	理解度
	2 毎回の授業の最初に、ねらいを確認したり、授業の終わりに学習したことを振り返ったりする機会がある。	ねらい・ふりかえり
	3 授業の中で、友人と話したり、文章を読むことなどとおして、自分の考えを広げ深める機会がある。	思考の機会
	4 授業の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考えたりする場面がある。	まとめ・解決の機会
学習の状況	5 先生・友達に聞いたり、自分で調べたりするなど、授業に対して意欲的に取り組んでいる。	意欲的態度
	6 予習、復習をしっかりとっている。	予習・復習
	7 授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。	成長実感
	8 授業の中で他の人の考えを聞いたり読んだりして、自分の考えを広げ深めることができた。	思考の実践
	9 授業で学んだことに対する自分の考えを書いたり、新しい問題を解決する方法を考えたりすることができた。	まとめ・解決の実践
	10 授業で新たに学んだことを、これまで学んでいたことに、結び付けて理解することができた。	既習事項とのかかわり
	11 家庭学習を習慣化している。	家庭学習の習慣化